つなごう絆
GANBAROU NIPPON!

3・3南三陸ひな祭り交流会
報告書

平成 24 年 3 月 2 日～4 日

3・3 南三陸町ひな祭り支援ツアー実行委員会

目　　次

1. はじめに（実行委員会一同より）・・・・・・・・・・ Ｐ３

2. ３・３南三陸町ひな祭り支援ツアー事前準備・・・ Ｐ４

3. 推進体制、構成メンバー ・・・・・・・・・・・・・・ Ｐ６

4. ３・３南三陸町ひな祭り交流会当日・・・・・・・・ Ｐ７

5. 私たちが見てきた被災地の今（平成 24 年 3 月 3 日～4 日）・ Ｐ８

6. 各班報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ｐ９

7. 富士市立富士東小５年１組からの手紙・・・・・・ P30

8. 現地からのお礼の手紙＜南三陸町名足小学校からのお礼のお手紙＞・ P31

9. 収支決算報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P33

10. 支援金・支援物資提供者、ﾂｱｰ参加者、事前準備作業参加者ﾘｽﾄ・・ P34

11. 新聞記事、TV 放映等 ・・・・・・・・・・・・・・ P38

12. 編集後記 ・・・・・・・P40

1．　はじめに（実行委員会一同より）

2011 年 3 月 11 日、東日本大震災が発生し、地震に伴う津波により東北地方沿岸は甚大な被害を受けました。
富士市に住む私達にとっても、東海地震が想定されているため、震災は他人ごとではありません。

「自分の目で被災地を見て何をなすべきか、将来的な地域防災はどうあるべきか、何をどのように支援すべきか」等々、問題意識を持った人たちが、1 年後の 2012 年 3 月 2，3，4 日に「南三陸支援ツアー」を計画しました。
この報告書はこのツアーに参加した人や、寄付金、支援物資を提供してくれた人達の記録です。

計画を実行するなかで、青葉台地区まちづくり推進会議、多数の市民団体、各種団体及び多数の個人が支援活動に参加し、結果として、ツアー参加者 91 名、寄付金は 34 の個人・団体、支援物資は 246 の個人・団体、事前準備として豚汁・ちらしずしの調理に 46 名の参加があり、大きなツアー支援の輪の中で活動を遂げることができました。ひとえに皆様のおかげです。ほんとうにありがとうございました。

ほとんどの人が初めてのボランテイア活動でしたが、心に受ける「ある種の満足度」とともに「支援活動の難しさ」をも実感しました。

震災後 1 年を経ても、現地はいまだがれきの山のままです。被災地の復興に向け、私たちは今後何を成すべきなのか、ツアーに参加して得たものを胸に、次のステップに踏み出そうと思います。ご支援ありがとうございました。

３・３南三陸町ひな祭り支援ツアー実行委員会一同

南三陸支援ツアー実際の行程

交流会及び宿泊場所：宮城県　本吉郡　南三陸町　歌津字番所 34　ニュー泊崎荘

3 月 2 日 22：30 出発⇒東北自動車道福島付近で雪のため通行止め⇒3 日 12：30 南三陸到着～音楽・影絵・支援物資配布ひな祭り交流会 ＝ニュー泊崎荘（泊）⇒4 日 被災地気仙沼等視察⇒松島（昼食）・瑞厳寺等⇒21：30 頃富士市着

半島の真ん中が水にすっぽりつかり、孤島となる

宮城県南三陸町歌津地区は、南三陸町の中でも、岬の先端になる。
そのため、震災後、4 日間物資が何も届かなかった

（南三陸警察署発表）

人的被害

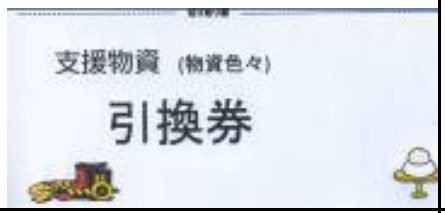
死者	396 名
行方不明者	612 名

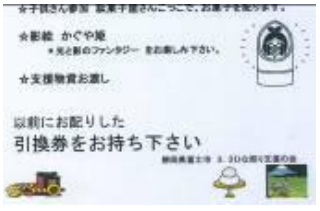
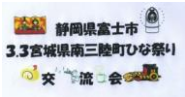
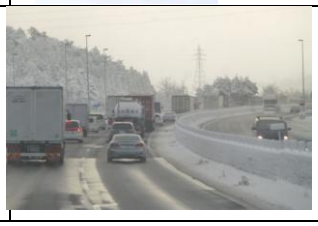
建築物被害（概数）

歌津地区	780 戸

（り災率約 55%）

2.　３・３南三陸町ひな祭り支援ツアー事前準備

2011年10月 12月4日 1月15日 2012年 1月25日 2月11日 2月19日 3月14日	 	実行委員会最初は、増田信義、小松春枝、小野房雄、中村敬子、秋山珠美、金田憲、渡辺久美子、渡辺健二、大洋観光秋山、金谷尚美、小野由美子で始まる。 １週間かけて、皆で、チラシ５０００枚配布。勝亦秀人、勝亦純子松本哲司、松本妙子、漆畑達子、平田敦子、石倉康子、吉田裕幸、時田祐佐、縣昌司、中野恵子、渡辺弘幸、熊谷良子、久保田充利、杉山美津枝が参加
2月11日 12日 18日 19日	 	渡辺健二さん宅の倉庫をお借りしで、支援物資収集。購入も含め、草刈り機五台、電動草刈り機１台、ブルーシート５０枚、シャベル三つ、お米１３０ｋｇ、トイレット&ティッシュペーパー、ワイシャツ、下着、エプロン、タオル、軍手、洗濯洗剤、石鹸等々集まる。
2月17日	 	南三陸町で最高のコーヒーを入れようと、三浦喜久江さん、小澤緑さんを講師に、コーヒー班でコーヒー入れ方講座を、青葉台まちづくりセンターで開きました。
1月　9日 1月25日 2月14日 2月28日	 	音楽班、打ち合わせ、中学校音楽教師OBとM&４D’ｓのお二人で、納得いくまでの音合わせ。富士市のごみを考える会のメンバーで、歌集冊子 150 部、追加リクエスト別紙も合わせて作成。
2月15日 16日	 	渡辺久美子さんは、ご実家のある南三陸町に田中文代さんと行き、同級生やご親戚と一緒に、5 か所の仮設住宅に、支援物資引換券とチラシを配布。
2月中旬	 	富士市災害ボランティア連絡会より、後援をいただきました。清水代表よりポップコーンの機械を借り受ける。
2月中旬	 	KAGEBOUSHI 班　・駄菓子屋さんこども班 企画会議・打ち合わせ・練習

２月中旬		申請していた「災害派遣等従事車両証明書」が、富士市より出る。バス 2 台、大型トラック 2 台、自家用車 3 台の往復 14 枚の証明書で、高速道路がすべて無料になる。
２月下旬		梅原万奈さん、吉野喜美子さん、石倉康子さん、平田敦子さんで、班別に色分けゼッケン 80 枚作製。交流会当日各班にて使用。
２月下旬		PTA の働き掛けにより、青葉台小学校の 5 年生が、宮城県南三陸町で　校舎が流された名足小学校 80 名の生徒全員に、心のこもった手紙を書く
３月２日 朝～		信栄製紙からトイレットペーパーとティッシュ 100 カートン・社会福祉協議会よりお米 100kg の寄付をトラックに積み、渡辺宅に集められた物資も積み込んで、ナカヤマ物流勝亦夫妻＋愛娘、2 台のトラックで、一足先に出発。
３月２日		女性ネットワークの方々で、豚汁の材料切りを、フィランセで行う。ほとんどの材料を皆様からの寄付で賄い、予算の３分の１。
３月２日		青葉台福祉推進会の方々を中心に、青葉台地区の有志で、青葉台まちづくりセンター調理室にて。ちらしずし 600 食を作る。米の半量、漬物等、寄付でいただく
３月２日		宮城県南三陸町に、先遣隊でついていた船津先生ご夫妻、時田さんご夫妻により、「３・３ひな祭り音楽会」のちらし 500 枚を、雪の降る中、仮設住宅に個別配布。
２月中旬～ ３月２日		時田祐佐さん、小野由美子で、当日配布資料と連日格闘。部屋割とスケジュールに最後まで悩み、４回のホチキス止めはずしを経て、直前に最終版完成。
３月２日夜 ～３日朝		東北自動車道が、雪のため５時間通行止めになり、昼食用に作ってもらったちらしずしを朝ごはんに食べる。大変ありがたく、皆で感謝する。3 月 3 日朝 6 時半やっと開通、朝 7 時到着予定が、12 時半過ぎにやっと到着、多くの現地の方たちに迎えられ、各班、配置につく

文責：小野由美子

3. 推進体制、構成メンバー

※：班長

	班　　名	構　　成　　員
1)	本部	※小野由美子,熊谷良子、久保田充利 小野房雄,渡辺弘幸、中野恵子
2)	物資輸送班	※勝亦秀人、勝亦純子、勝亦あや
3)	ひなしちらし調理班	後述（36 ページ参照）
4)	救護班	※石田友子、長橋シマ子
5)	豚汁調理班	※秋山珠美、内田貴子、大石久子、黒岩正江、芹沢和子、 渡辺雅子、米山勝英、山崎和美、渡辺和子、藤田啓子、 佐藤絹子　（37 ページ参照）
6)	昼食配膳班	※漆畑達子、増田暁美、石川多津子、 斎藤みつ代、小山照代、荻原正江、高田愛子、 長倉時江、和田上たま江、落合真奈美、竹松由美子、 渡辺セイ子、金刺美津子
7)	お茶提供班	※杉山美津枝、杉山絹江、杉山君代、落合真奈美、勝亦昌子、 高橋みな子
8)	お誘い班	※渡辺久美子、田中文代、大石敏正、荻野武彦、芹沢好 金森光弘
9)	コーヒー・ケーキ班	※吉田裕幸、石田友子、長橋シマ子、大石恵美、金谷尚美、 坂東英代、船津和世子、時田由美子、影島由希、吉田かんな
10)	支援物資班	※増田信義、渡辺健二、中村敬子、金田憲、影山通、神尾昇、 杉山近司、小松春枝、板重恵子、高井まり子、加藤れい子、 田中行雄、石川憲昭、山田徹、塩崎久代、佐野のぶ子、 高橋祐貴
11)	お菓子・子供班	※金谷尚美、坂東英代、船津和世子、時田由美子
12)	歌声班	※船津好文、竹内敏夫、佐野町子、松本哲司、松本妙子 縣昌司、時田祐佐
13)	KAGEBOUSHI 班	※和久田恵子、石倉康子、平田淳子、三澤多美子、福井睦美、 鈴木和子、徳尾由子、皆川一哉、鈴木大介、四条、仁藤、河野
14)	写真班	※金田憲、縣昌司、時田祐佐
15)	実行委員会	※小野由美子、増田信義、小松春枝、小野房雄、中村敬子、秋山珠美、 時田祐佐、渡辺久美子、渡辺健二、大洋観光秋山、勝亦秀人、勝亦純子 松本哲司、松本妙子、漆畑達子、平田淳子、石倉康子、久保田充利 金田憲、縣昌司、中野恵子、渡辺弘幸、熊谷良子、吉田裕幸、金谷尚美
16)	報告書編集班	時田祐佐、金田憲、金谷尚美、大石恵美、石倉康子、坂東英代、 小野房雄、小野由美子、

４．　３・３南三陸町ひな祭り交流会当日　　文責：小野由美子

午前 2 時半ごろから福島県那須塩原の手前で雪のため、東北自動車道が通行止めになり、バスの中でまんじりともせずにおりましたが、午前 6 時半開通、サービスエリアのトイレはすごい大混雑でした。

仮設住宅自治会長さんと

予定の朝 7 時到着は不可能となり、仮設住宅各自治会長諸氏にお電話し、到着の遅れを伝えるとともに、お手伝いいただける方々を募ってもらい、先に到着しているトラックから、物資を降ろしておいてもらいました。先遣隊と快く手伝ってくれた仮設住宅の皆様には感謝です。ニュー泊崎荘さんには、事前に豚汁を作ったり、ケーキを切っておいてもらいました。大変お世話になりました。

予定より大幅に遅れ、3 月 3 日午後 12 時半ごろに、やっと南三陸町会場に到着。前日の吹雪がうそのように、3 月 3 日ひな祭りは晴天になりました。

すぐに、待っていた 100 名以上の現地の方々にちらしずしと豚汁を食べてもらい、その後、別室での歌声喫茶の始まりが午後 1 時半と、ほぼ予定通り行うことができました。歌声喫茶では、コーヒー班のおいしいコーヒーの香りの中で、お年寄りの方が民謡を歌ったり、踊ったりしました。たくさんの笑顔に出会えました。紙芝居も無事でき、子ども達は、お菓子屋さんごっこと、影絵を楽しみました。うれしそうな笑顔が見えました。支援物資分配班は大変でした。500 名以上の方々に、いかに平等に分けるかと悩み、苦しみながら、皆で必死に頑張って、大型トラック 2 台分の物資が分けられました。

4 日夜 9 時過ぎの雨の降る中、無事に、全員で帰ってこられてほっといたしました。

後日、漁師の方々の地区が一番必要としているブルーシートが足りなかったということで、皆さまからのご寄付から、ブルーシート全 28 世帯分を購入し郵送しました。品物の入荷が遅れ遅くなってしまいましたが、喜んでいただけました。

また、ニュー泊崎荘のみなさまには、大変お世話になったことから、実行委員会の反省会で、お礼をすることになり、54,000 円を送らせていただきました。

物資の支援には、大変気使いのいる難しい局面があるとつくづく実感いたしました。

思いがけず皆様からいただきました寄付金は、今回の南三陸交流会での支援活動の充実に充て、残金は富士市社会福祉協議会に全額寄付することといたしました。至らぬところ多々あり、反省・後悔することしきりでしたが、皆様のおかげで無事に支援を実行し、帰ってこられたことに深く感謝いたします。ありがとうございました。

5. 私たちが見てきた被災地の今（平成 24 年 3 月 3 日～4 日）

3 月 3 日 12 時 16 分　南三陸町

町立志津川病院

3 月 3 日 12 時 34 分　南三陸町

屋上に車が

3 月 4 日 9 時 23 分　気仙沼

廃車

3 月 4 日 9 時 26 分　気仙沼

打ち揚げられた漁船

3 月 4 日 11 時 11 分　南三陸町

がれき

3 月 4 日 11 時 18 分　南三陸町

津波で消滅

6. 各班報告

本部

本部①　“本部という裏方で”　文責：小野 房雄

南三陸支援ツアーを初めから係わり、当日は、組織上「本部」としてすべての班の調整にあたりました。計画段階では「完璧」のはずが、雪という自然現象で高速道路の通行止め？時間が間に合うの？と気をもむこと数時間、とても遅れて現地到着、午前の部は大幅カットして、宿舎の大広間では、ちらしずしと豚汁の配膳、並行して音楽会の開催という事態になりました。一方宿舎の庭では先遣隊と被災者によりトラックから荷降ろしされていた支援物資を、４００個に小分けする作業が現地到着と同時に急ピッチで進められました。庭には被災者の方が集まり、支援物資の配給を求める方が多数でていました。当初の予定では音楽会、影絵の終了後に分配する予定でした。しかし、途中から、引換券（先遣隊が事前に配布済み）を持っている方には配布するようにしました。しかし引換券を持たない方が支援物資を求めることがありました。判断に苦しみました。渡すべきか、止めるべきか。被災者に対する「公平性」とは何か、この問題は、その後何回も支援物資を求める方に遭遇した時に強く感じました。

仮設住宅自治会長さんと打ち合わせ

支援物資の中には被災者からの要望として「草刈り機」「ブルーシート」がありました。自治会ごとに「公平性」を保ち分配するには人数で按分するしかないと考え実行しましたが、自治会毎の今までの支援物資の配布状況に差があるらしく不満が出ていました。支援物資を集めるのは、富士市民等の熱意でトラック２台分も集まりました。しかし、いざ現場で支援物資を配る段になると、「公平性」「平等性」を保ちながらどうしたらよいのか判断に苦しみました。（公平性も、平等性も必要ないのではないのか、いまでも気持ちの一方では乱暴に感じているが（？）被災とはこういうものなのか。被災後１年を経過したときに、「被災者からみた支援とは何なのか」「何が本当に必要とされているのか」「事前に調査をもっとできたのではないのか」反省することばかりです。

「朝の生わかめの販売」

しかし、津波により家屋の土台だけ残った南三陸沿岸の海に、わかめの収穫に精を出している漁民の方が沢山おり、このツアーの人たちのお土産になった「南三陸わかめ」に復興の兆しを見た　のは私だけではないと思います、復興を実現しましょう。

最後に、このツアー参加者の奮闘に感謝、このツアーを支援してくださった皆様に感謝いたします。

本部②　文責：渡邊　弘幸

今回の支援ツアーのために支援者・有志が多数集まり、東日本大震災の南三陸町被災地へ平成 24 年 3 月 2 日から 4 日まで被災地に行き交流イベントと支援物資を届けるツアーに飛び入り参加させて頂きましてありがとう御座いました。

「3月4日南三陸歌津での夜明け」

私は40年前から東北地方に縁があり機会がある度に見てきました。平成 22 年 8 月初旬にはマイカーにて東北の福島県会津・猪苗代・裏磐梯、宮城県仙台市から松島、南三陸町、山形県山形市、新潟県の旅行に行き美しい自然がある海岸線・山河を見て回りました。しかし、昨年の大震災大津波により南三陸町・気仙沼市・松島を見ましたが破壊された建物の基礎部分だけ残った街並み、がれきの山と化した光景が延々と続いている現地を目の当たりに見て被害の甚大さを改めて痛感しました。

「南三陸町歌津に入ったときの風景」

現地にて支援物資を手渡す際に数人の方から「ありがとう！」とお礼を言われて握手をされました。南三陸町被災者の方々に交流と支援物資を提供することができ少しでも生活の励みになれば幸いと思っています。

反省としては現場会場についてすぐ各班が準備に取り掛かりイベント会場も分散し、スケジュール全体が短時間となったため、私も現地の数人とちょっとしか会話することができず、短時間での交流でコミュニケーションを取ることは難しいですが昼食時間やイベントの間にでも現地の方々とお話しができればよりよかったと思いました。

今回の支援ツアーは主に青葉台地区有志の方々が集まり各班による出発前日までの事前準備、遠距離の現地で短時間の活動を実行され、皆さんのご尽力の御蔭によりイベントを終了できたと思います。皆さん大変ご苦労様でした。

最後に被災地の復興にはこれからも相当な年月・労力・投資が掛かりますので被災地の皆さまのご健康と 1 日でも早く復興されるようお祈り申し上げます。

本部③　文責：熊谷 良子

「仮設住宅へ参加者を送っていくバスの中」

初めて津波の被害を目にして、テレビで見ていたのとは違う、感情が湧いて来ました。まだまだ復興は、程遠い……。私達に、これから何が出来るかと、考えてしまいました。

ひな祭り交流会では、迷路の様な、建物の中を、チラシ寿司や、昼食場所へ、物を届けたり、歌声会場や、物資配り等、色々な班の手伝いをしました。

平成の森仮設住宅へ帰る方々を送って、バスに乗り、お話しを伺った事が、心に残っています。

輸送班

文責：勝亦　秀人・純子

数ある運送会社の中で当社をボランティア企画に参加させて頂き、大変心より感謝しております。被災地のみな様に喜んでいただき、たくさんの笑顔を見れた事が印象深い思い出になりました。高速代（無料化の手続き）燃料代の支援ありがとうございます。

ひなちらし調理班

文責：漆畑 達子

１月初め、南三陸町へ支援ツアーを計画し、豚汁（現地で）とちらし寿司を５００食用意して行くと聞き、「エーッ、５００食！」と思わず云ってしまいました。「ちらし寿司を担当して」と云われ正直躊躇しました。が、福祉推進会が全面的に協力、他にも協力の人達がいるとの事「やるしかない。」と考えを決めました。しかし数が数なだけに本当に不安でした。

調理してから食べるまでの時間が一番気になり、実際作り、翌日に食べて堅さや味を確かめたり、上に飾るのに何がいいか打合せをし、「これなら大丈夫じゃない。」と混ぜる具は、干椎茸、人参、れんこん、上には、おぼろ、卵焼き、桜えび、絹さや、刻みのりに決まりました。その後はどの位必要なのか見本を作り計算し、調理前日までに３人で分担して買物、３月２日は午後から調理予定でしたが、午前しか協力出来ない人が有り、午前から準備にかかりました。午後からは多くの参加があり寿司飯の酢合わせ、具を煮る、桜えびの味付け、卵焼き、絹さやを茹で切る、のりを刻むと、調理台毎に分け、何人かで担当しスムーズに進みました。酢飯が出来ると具を混ぜさまし、パックに詰め、上に前記の５種類を順番に手際よくのせていきました。盛りつけは手のあいた人全員で大忙し、「〇〇がのってないからお願いします。」とチェックしながらし、仕上げに「ふじ発　ひなちらし」のパッケージをのせ輪ゴムを渡して出来上がり。材料が足りなくて買いに走ってもらったりハプニングもありましたが、５５０食、２２名の協力で予定時間より早く出来ました。さすが主婦の皆さんです。

南三陸町の方々が笑顔で食べて下さる様子を思い浮かべながら私達も、味と心を充実感の笑顔で送り出しました。

調理室の片づけ、掃除と最後まで頑張り、スリッパの裏が汚れたので持ち帰り洗ってくれた人もいました。お疲れ様でした。

救護班

文責：石田 友子

当日は看護師の役割として風邪薬、絆創膏、包帯、抗生剤の軟膏程度を持参しました。とても良い体験をさせていただきました。この体験はけして無駄にいたしません。

実行委員の皆さんの団結力は素晴らしかったです。91 名の参加者が一人も事故もなく成し遂げたことは素晴らしいと思いました。想定外の雪のための足止めでしたが、緻密な計画のもと実行に移され、仮設住宅の皆さんの喜びで疲れも吹っ飛んでしまいましたネ。さすが小野由美子さんの統率力と信頼関係の強さに感服。あまり役に立てませんでしたが、皆様に宜しくお伝えください。

豚汁調理班

豚汁調理班①　文責：秋山 珠美

豚汁班では、500 食分の材料・用具の調達から仕事がスタートした。幸いなことに、私たちネットワーク・富士には、大量の豚汁作りの経験が蓄積されており、必要な用具や材料の量をそこから計算することができた。材料については、本当に多くの方々の善意とご協力により、ほとんど買わずに手に入れることができたし、大鍋やガスコンロなどの用具も心よく貸していただいた。

下ごしらえは、3 月 2 日、出発日の午後 1 時よりフィランセの調理室で、24 名が 5 つの班に分かれて行った。大根・白菜など、それぞれの担当の野菜を煮崩れして溶けてしまうことがないよう大きめに刻み、1 つの鍋で 100 食ずつ作ることができるので、各 5 袋ずつ分けて分量が分かるようにしておいた。

しかし、このような準備はしていたものの、バスの大幅な遅れにより、被災者の昼食には、泊崎荘に作って頂いた豚汁を分けることとなってしまった。私たちは 100 食分のみを作り、残りの材料は宿にお礼として

お渡しした。豚汁班としては、全く面識のない方も含めて打合せをする暇もなく、慌ただしく仕事を始めなくてはならなかったため、大混乱であった。「ある」と聞いていた食器が現場に届いてなかったことも、それに拍車をかけた。結局、宿からお借りすることになってしまい、またご迷惑をおかけした。これらの食器は、配膳班が洗ってくれたそうである。

100 食分の豚汁については、学校給食の現職の方が主になって作ってくれたので、助かった。これらの大部分は、宿にお願いしてツアー参加者の夕食に出していただいた。

災害ボランティア連絡会の清水会長からお借りしたポップコーンの機械は、フル稼働で、大人にも子供にも喜ばれた。特に大人は出来上がるのを待つ間、被災したことやこれからのことについて話す人が多かった。豚汁の配食をしていた人の中にも、被災者の話を長時間聴いていた方があったようである。

現地の方々と触れ合う時間は、あまりもてなかったが、少ない中でも、物だけでなく心の触れ合いが大切であると感じた訪問であった。

豚汁調理班②　“ポップコーン作業をして”文責：米山 勝英

私は被災した人々を少しでも元気づけたらよいと思いこのツアーに参加させていただきましたが、思ったより皆様が明るく元気で頑張っているのに少しは安心しました。

私は､ポップコーンを作るのを任されまして、子供たちにおいしいポップコーンを食べ、明るく元気になってほしいと思い頑張って作っていると、ニコニコした子どもたちの長い行列ができて、東京ディズニーランドと同じキャラメル味のポップコーンを、一人一人に渡してあげると「ありがとうございます。」と皆で元気な声をかけてくれました。

この子供たちに少しでも明るく元気になってもらうつもりでいたのですが、私の方がかえって元気づけられました。

近くにいたお母さんたちが、「遠いところから来ていただき、ありがとうございます。おかげさまで、これからも毎日の生活を子どもたちと一緒に過ごしていけます。」とお礼の言葉をかけていただきました。

このポップコーンを食べた元気な子供たちが、十年二十年後には素晴らしく成長して日本（東北）を背負ってゆく人材になると思います。

これからもまたこのようなツアーがあれば参加したいと思います。

!! カンバレ東北南三陸町の皆様 !!

昼食配膳班

昼食配膳班①　文責：中野 恵子

今回、私は小野房雄さんの同級生ということで、本部として参加しましたが、当日は配膳班の担当になりました。東北道が一部通行止めになり、一時はどうなる事かと気をもみましたが、予定より五時間半遅れ、多少の変更もありましたが、予定のプログラムがこなせて良かったと思います。

泊崎荘に着いた時には、被災者の方々が席に着いて、既に食堂が満席状態でした。豚汁を現地で作る予定でしたが、それは間に合わず泊崎荘で既に作ってくださってあり、それを盛って、配るだけでしたので大いに助かりました。泊崎荘の皆様に感謝です。配膳班でのおもてなしのメニューは、ちらし寿司（富士から手作り）ロールケーキ（現地調達）豚汁と漬物です。

被災者の人に「今までおもてなしを受けた中で一番美味しかったよ！」と言われ、私がちらし寿司を作ったのではないのですが、とても嬉しかったです。

ちらし寿司は 400 食位食べて頂きました。ちらし寿司の容器には、趣のある富士の絵を描いた紙が巻いてあり、これも手作りと聞きました。慌ただしい中で、被災者の方々とコミニュケーションが、あまり取れなかったのが残念でした。

被災から一年が経ち、まだまだお辛いと思いますが、富士の人たちが南三陸、東北の人々を応援している、その気持ちは伝わったのではないかと思います。

そして、ひと時でも被災者の方々に喜んでいただけたのではないかと思っています。これから復興が進むと思うのですが、今回だけの交流に終わらずに、今後も末永く何らかの形で復興の支援、交流ができれば良いと思います。

お土産で買ってきた、ワカメとロールケーキとても美味しかったです。

昼食配膳班②文責：増田 暁美

通行止めと言うハプニングがありどうなる事かとおもいましたが、何とか南三陸町仮設住宅の皆様に喜んでいたたく事が出来たと思います。

一番印象に残った事は歌声喫茶のときに参加してくださったひとりのおばあさんが目頭を押えて泣いていました。私までつられて泣きそうになりました。

ちらしずしも美味しい　美味しいといって食べていました。私たちは作りたくても材料も買うところもないといっていました。私は自分なりに心のケアーが出来たのではないかな？と思います。一人では何もできないけれど、大勢の人たちの寄付金・支援物資そして、大勢の人たちの人為的協力があり、改めて、人の力の大きさを感じました。このツアーに参加してよかったと思いました。

昼食配膳班③　文責：斎藤　みつ代

広報ふじを見て、皆さまの頑張りこそが日本人の心と思いました。

富士山と桜エビ、えがおが届けた、わすれられない甘味、五色のひなちらし、いただきました。青葉台のみなさま、ありがとうございました。ご一緒できてしあわせでした。

昼食配膳班④　文責：石川 多津子

「被災地の現状を、自分の目で確かめたい」「自分に、何か出来る事はないか」そんな思いで、ツアー参加を決めました。

実際、被災地に行ってみると、津波で流され、コンクリートの基礎だけが残ったり、壊れたままの家屋、山積みされた多数の車、高く積まれたがれきの山、と言う現状でした。

１年経っても、まだこんな状態だったのか……と言葉を失い、愕然としました。そして、災害の大きさと、恐ろしさ、被災者の苦悩を思うと、心が痛みました。

ニュー泊崎荘へ到着すると、私(配膳班)は、直ぐ様、会場に向かい、バタバタと支度をし、食事に来てくださる人々の給仕。出発前日まで、仮設住宅の人と、どんな話をしようか？……。何て声を掛け、励ましたらいいのかな？……。また、どんな事に、気を付けなければ、ならないのだろう？……。なんてあれこれ考え、心構えていましたが、会話する余裕が、全くありませんでした。

今回のツアー参加は、私にとって、大変有意義な時間だったと、思いました。それに、何より、小野さんが、ツアー実現のために尽力された事に、心から感謝し、お礼を申し上げます。

昼食配膳班⑤　文責：金刺　美津子

被災地の方々が今一番欲しいもの「仕事が欲しい」と返答。支援物資も心の支援も当座は救いとなるが、これから生き続けていく上で生活の糧、営みが無ければ元の一般的生活には戻れない。大きな不安を抱えているのは当然。

被災地に立って、瓦礫の山、波に潰され集められた車の山を見た。地震と火災で建物が消えてしまった寒々とした広い跡地に冷たい風が吹いていた。津波に置き去りにされた大きな漁船、その下に車が２台下敷きになっていると。もしかしたらそのぺちゃんこの車の中に人がいるかも知れないと案内人は言う。

3／11 から早や１年経った。本当の復興はまだまだと胸が痛む。現地を訪ねて思った事、自分自身、この三重苦、四重苦の震災に襲われたらと。必ず来るという東海地震。今私たちは、知恵と知識を持ってその時の為に、物心共に備えなくてはと思う。幸か不幸か少なくとも富士市民は東日本大震災によって重い教訓を示された。支援ツアーに参加出来た事、感謝しています。

お茶提供班

文責：杉山 絹江

出発２時間前になって、班長が参加できなくなり、急きょ引き継ぎました。南三陸についてから、お茶の道具がどこにあるのか分からず、困りましたが、泊崎荘のやかんなどをお借りして、無事お茶を提供できました。喜んでもらえてよかったです。

お誘い班

文責：金森 光弘

仮設住宅お誘い班の活動は、大雪で到着が遅れたため、顔合わせや準備も不十分なままニュー泊崎荘さんの送迎バスに乗り込み、慌ただしいスタートとなりました。

仮設住宅までの経路は、未舗装の箇所が多く、まだまだ応急復旧の状態でした。そんな不安定な道を乗り越えて、1 回目は名足、港地区へ。2 回目は平成の森という高台にある仮設住宅へ迎えに行きました。

平成の森は総合スポーツ施設でしたが、管理施設を町の総合支所仮事務所に、グラウンドや球場は避難所として、仮設住宅が建設されていました。ここでは 200 世帯以上の方が、所狭しと並んだ長屋のような平屋のプレハブ仮設住宅で生活をされていました。バスに乗らないと買い物にも行けない等、日常生活は不便で、またプライバシーの面からも不自由な様子が感じられました。

ここでお迎えした 30 数人の被災者の方は皆、私たちが「遠くから来て、イベントを開いてくれてありがとう、嬉しい」という事を話してくれました。会場までの道中では、「この辺りまで波が来た、あの家の友人は別の仮設にいるけど元気かな？」など、津波が来た時の様子や、それぞれの近況など口々に話をされていました。嫌な記憶に触れて良いのか、どこまで話を聞いて良いか、また富士市で避難生活をするような事になったら…と自分を重ねながら、貴重な話を聞かせていただきました。

イベントが終わり、被災者の皆さんを送り届ける時には、富士急行のバスを含め、2 台でお見送りしました。お別れの際にも、多くの感謝の言葉をいただきました。しかし、中には支援に慣れていて、支援が当然という顔をされる方もあり、単純に「やって良かった」では終わらない物、災害支援の複雑さを考えさせられもしました。

私は、市の業務としての被災地派遣は行けず、今回のツアーを願ってもない話として参加させていただいた訳ですが、本当に色々と考えさせられる機会をいただけた貴重な経験になりました。ありがとうございました。

コーヒー・ケーキ班

コーヒー・ケーキ班①　文責：吉田 裕幸

今回　支援ツアーに参加して、自分の目で被災地を見ることができ、また微力ながら支援のお手伝いの機会をいただいたことに感謝いたします。

大雪による到着時間の大幅な遅れにもかかわらず、大勢の皆さんにコーヒーを楽しんでもらえたことは私たちコーヒー班として嬉しいことでした。

コーヒー班としての反省と感想をまとめてみました。

＜反省点＞

・現地で使うはずだった道具が支援物資と一緒に積み込まれ、荷物を下ろしたのも仮設住宅の人達だったので、必要な機材が支援物資と一緒になってしまい、見つけ出すことができなかった物があった。結果としてニュー泊崎荘さんの物を使わせてもらうことになってしまった。

・現地に着いて準備も打ち合わせもできなかったため、役割分担もできないまま、いきなりのスタートになってしまった。そのため無駄な動きが多く、無駄になってしまった資材もいくつか出てしまった。

・コーヒー班はずっと宴会場にいたので、外の班の動きがまったく分からなかった。横の連絡が取れて、他の班が今どういう状態にあるかが分かるといいと思った。(お迎えのバスや支援物資の配布状況など)

・お湯を沸かしたり、コーヒーを入れたり配ったりと。仕事に追われて地元の人達と交流できなかったのは残念だった。

・コーヒーをおとしてくれた石田さんが、首が回らないほど腕と肩が痛くなったと後で聞いたので、途中で役割を交代すればよかった。

・おいしいコーヒーを、外で作業していた人達に飲んでもらえなかったのは、残念でした。

・コーヒー班は本部から離れていたせいか、連絡が届かないことがあった。

(宴会開始時間・集合写真の撮影・ワカメの販売など)

＜良かった点＞

・コーヒーがとても美味しいと言っていただけ、おかわりする人が大勢いた。

・事前の勉強会がとても役に立った。おいしい入れ方だけでなく、大勢の人にサービスする場合の注意点など予備知識が持てたのは良かった。

・地元の人が、コーヒーが欲しいとか、お水が欲しいとか、遠慮なく言ってくれたのが嬉しかった。

・歌声や影絵はとても盛り上がっていて、とても喜んでくれているのが伝わって来ました。コーヒーが気分を盛り上げるのに、一役買ったと自負しています。

・コーヒー班の若い二人が、嫌な顔一つせずよく働いてくれました、すばらしいと思いました。

・コーヒーの香りは飲む人だけでなく、入れている人も幸せにしてくれました。とても良　い企画だったと思います。

ニュー泊崎荘　絆ロール

・最後に・・

コーヒー班の1人に現地の３０代の女性がこんな言葉をかけてくれたそうです。

「反対の立場になったときに、私達にこれだけのことができるでしょうか？」

私は、「私も震災以来ずっと少しの寄付をするぐらいしかできないと思っていましたが、今日ここにいます。みなさんにもきっとできますよ。私達にしてくださると思います。」と答えました。

コーヒー・ケーキ班②　吉田 かんな

はじめに、この南三陸町被災地支援を通し、被災地での支援活動に参加し、また実際に津波の現場を見ることができました。本当に貴重な経験をさせていただいたと思います。ありがとうございました。その際に抱いた感想を、書かせていただきたいと思います。

震災後によく耳にした言葉の一つに、「わがごと化」という言葉があります。正直、今回のように被災者の方々と会い、また被災地を目にするまで、どうしても「テレビの中の出来事」という感じが自分の中にありました。あの震災があれだけの被害を受け、あれほど報道もされていたのにも拘らずに…というよりはむしろ、あまりに非日常的な出来事だったためだと思います。「想像を絶する」ものでした。しかし、自分の想像力を働かせても大きな距離があった被災地の現状を実際に目にし、その距離が少しではありますが確実に変わったと思います。今、被災地では何が必要とされているのか、自分にできることは何なのか、改めて考える本当に良い経験になりました。

また、同じ地域に住む人々が同じ経験を共有できたこともよい機会だったのだろうな、と思います。被災地のこれからについて考える一方で、私は自分の地元のことについても考えるようになりました。東海地震が以前から懸念されていたこともあり、防災の意識は他の地域よりも高いと思います。だけど今回、日本は「予想外」といわれる大地震に見舞われました。「想定外」はいくらでも起こるという想定をしていかなければならないと思います。私が思うに、物質的な備えは比較的容易にできると思います。それでは容易ではないことは何なのかというと、やっぱりそれは地域コミュニティの強化なのだろうな、と思います。だから、今回のように経験を共有し、さらに普段関わることがないような人とも関わることができてよかったのではないかと思います。

コーヒー・ケーキ班③　影島 由季

私は、この会に参加することができてとてもよかったと感じています。
南三陸町の方々はとても元気で笑顔のあふれる方ばかりで、行った私が逆に元気や笑顔を頂いた気がします。

私はコーヒー係をやりました。コーヒーを配りながら、たくさんの人々と話をすることができました。コーヒーをくばると、笑顔で“ありがとう”と言ってくれて、とても嬉しく感じた事を覚えています。

次、どこで地震が起きるのか分かりませんが、いろいろな場面で自分から進んで行動していきたいと、思えるようになったので、本当によかったです。また参加できる事があったら、参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

コーヒー・ケーキ班④　文責：大石 恵美

南三陸町は寒かったです。温暖な富士市に住み、寒がりの私には寒さが応えました。もう1年も前のこんな寒い日に突然大きな地震がやって来て、家が壊れて、波にのまれて、寒かっただろうな、冷たかっただろうな、怖かっただろうな、大切な人を失くして本当に辛かっただろうな、と思ったら、とても胸が苦しく切なくなって泣けました。

被災地には、枠組みしか残っていないビルやガレキの山、崩れたままの道路がそのままになっている所が沢山あり、沿岸部の見通しの良い平地が、かつての住宅街だったことを、延々と続く家屋のコンクリートの基礎が物語っていました。

たった1日の訪問なんて一体何の足しになるのかしら、却って迷惑じゃないかしら、ツアーに行ったつもりで代金を義援金にした方が良いんじゃないかしら、と迷いに迷いました。それから、自分の驕りじゃないかとか、私、人から誉められたいんじゃないかとか、自分なりに考えました。でも迷ったり考えたりしているうちに、折角の機会を逃してしまうのは、もっとイヤだなと思って参加しました。

さて、現地ではコーヒー班としてお手伝いをしました。素敵な吉田さんのリーダーシップの下、お湯を沸かし、コーヒーを配り、歌や影絵を楽しんでいただくことができました。腰の曲がったおばあさんが多く、長い間漁業や農業に勤しんでこられたことが分かります。年をとってからの仮設住宅暮らしが大変なこと、想像に難くありません。「物よりも仕事が欲しい。」というリクエストがあったそうです。真の支援について考えさせられました。

行って来て本当に良かったと思います。自分の目で確かめること、実際に体感することで得られるものは大きく、何物にも換えられません。

地震から逃れられない国にいて、誰かが犠牲になるのだったら、1万5千以上もの亡くなった方は、もしかしたら私たちの身代わりになってくれたのかもしれないと、改めて今の自分の幸せにも気付きました。

近い将来、私が住む富士市も同じような境遇に陥る可能性が高いです。辛い思いをする人が、一人でも少なくて済むように、一人一人がもっと真剣に考えて、実行しなければいけないと思います。

今回の支援ツアーにあたり、実行委員の皆様を始めとし、何百人もの方々が準備その他にご尽力なさったことを出発してから教えていただきました。何のお手伝いもせずに参加してしまい、とても申し訳なく思っております。今回得た教訓を、今後の日々の活動に活かしていきたいと思います。

支援物資班①　文責：増田 信義

支援物資は２月 11 日から収集を始めて、渡辺健二さんの倉庫をお借りして毎週土曜・日曜日に有志により品目別に纏めて梱包する作業を行なって来ました。

21 団体・250 名余の方々からの支援を受け大型トラック２台分になりました。支援は、信栄製紙からのトイレットペーパー100 カートンをはじめ、青葉台地区や吉永地区等各地区からのご協力をいただきました。又、社会福祉協議会関係の各種団体の協力もあり、多くの方の支援物資が集まりました。

その中で富士市立東小学校５年１組からは、体験学習の「田植えから収穫まで」で得た売上金で草刈機をいただきました。又、ある方は自分が被災者になったら今一番欲しいものは何かを考え、水仕事で手が荒れて困るのではないかと、ハンドクリームを大量に購入して届けてくださいました。

物資を届けて頂いた多くの方は、今自分に出来る事は何か？出来る事をしようとの思いで協力していただきました。

３月２日午前中、雨の中を中山物流の勝亦ご夫婦の大型トラック２台に支援物資を積み込み、南三陸町に出発しました。

３日は雪のため大幅に到着時間が遅れる中で、既にたくさんの地元の方と中山物流の勝亦夫妻と先に着いた時田夫妻・船津夫妻により荷物を整理して降ろされていました。早速支援参加者と地元の方にお手伝いいただき、支給品の仕分け作業に入りました。

ビニール袋にトイレットペーパー・ティシュ・洗剤・タオル等を 400 袋作りました。支給は１６時からの予定でしたが地元の方が待ちきれず、14 時頃から引換券と交換で配布をしました。16 時 30 分頃に終了しました。

お手伝いいただいた仮設住宅の皆さんと支援物資配布班

草刈機 5 台･ブルーシート 40 枚・衣類や電気製品等、全員に分け切れない物については、５ヶ所の仮設住宅の自治会長さんに渡し、配布をお願いしました。

渡辺久美子さんの同級生など友人が現地連絡や地元情報を発信し、企画に協力していただきましたので、お礼にお米１３０ｋｇをお渡ししました。本については名足小学校 PTA の役員に学校で使用して頂く様に渡しました。

又、今回の企画にご尽力いただきました「ニュー泊崎荘」に感謝を込めて業務用トイレットペーパー４カートンと従業員に支援物資を 40 個お渡しいたしました。

今回、現地到着が遅れるハプニングが有りましたが、参加者・現地の方々のご協力のおかげで、皆様からお預かりした支援物質を無事に届けることが出来ました。

支援物質を届けてくださいました皆様有難うございました。

支援物資班②　“今、ひとりひとりに出来ること”文責：石川 憲昭

大震災後、一度自分の目で状況を見なくてはいけないと、興味本位でなく、日本国民としての責任と思い、仕事との調整時期を模索していたところ、3･3 ひなまつり支援ツアーの話をいただき、即、参加申し込みを致しました。

実際に現地の悲惨な状況を目にして心が痛みました。

テレビ等で色々の政治家の方が背広を着て、もっともらしい事を言っていますが、現地のその中で生活している人の何がわかるのでしょう。

すべては被災地に立って、初めて、何から始めなければいけないかがわかると思います。

今回の支援ツアーを立ち上げてくれた小野由美子市議は他の政治家と違うことが実感できた有意義な支援ツアーでした。

次回何らかの企画をされる事ことがあれば、出来る限り参加したいと思います。

支援物資班③　文責：塩崎　久代

今年は、桜の開花を待って花見に行き、青空に映える花の美しさをしみじみと味わった。昨年のこの頃は、被災地に住む友人の安否を毎日の新聞の名簿、市役所に問い合わせたり、テレビ画面に映し出される避難所の画面から、友人を探す毎日だった。そしてただ漠然と地震、津波、原発の事故の凄まじき災害状況を見ているばかり。友人を探す手立てはなかった。

４月半ばころ、探していた友人から電話があった。被害の大きい場所に、居住だったので、半ばあきらめていた。元気な声を聞いたとたんホッとすると同時に、すぐにも見舞わなければの問いに、友人は、「今来ていただいても交通機関はないし宿泊するところもないからそれは無理。」とのことであった。

このような背景から、私自身にできることは何かと思い、ボランティア活動の仲間の一人となって参加した。

南三陸町に着くと、友人がわざわざ会いに来てくれて、しばしの再会を楽しみ、近い将来の訪問の約束をして別れた。

現地の状況はテレビの映像以上の惨状であった。あちこちに積まれたがれきの山、津波にさらわれ土台のみ残した住居跡、荒れ果てた田畑、そこに暮らした人々のまだ息が残るような品々が無残な姿と化している。国や県に任せては、復興はできないと、自費で重機の免許を取って後片付けをしているという市民の声も聞いた。

私はただ一日も早い復興を祈るのみで帰途についた。被災地に心を寄せ、一日も早い平穏な生活の再興を願い、私たちにできる支援をしなければならないと、強く感じた。

支援物資班④　文責：中村 敬子

私が宮城県南三陸町を訪れたのは、今回で二度目でした。一度目は震災半年後の九月に私が住む町内の人たちと、物資を届けに行きました。

峠を越えたら言葉が出ませんでした。自然と涙がこぼれてきました。鉄くず、車、流木等あちらこちら、ががれきの山でした。あれから半年、悪夢のような大震災から一年 !! 前回よりがれきも大分片づけられ、町が整備されていたように見えました。物資仕分け作業の際、以前お会いした人たちが憶えていてくださり、声をかけてくださいました。

「前にはありがとう」「今回も遠くからたくさんの物、楽しいイベントをありがとう。」と何度も頭を下げてくださいました。何もできない私でしたが、何かお役に立てたのかな？ また機会があればお手伝いさせて下さい。
ありがとうございました。

お菓子・子供班

お菓子・子供班①　文責：金谷　尚美

事前に子ども達の支援に『何が欲しい？』と聞いた所、『お菓子。』と答えたと言う子ども達。５つある仮設住宅には８０人の小学生達が住んでいると聞きました。青葉台小学校 PTA からの寄付と合わせて約３万円の予算で、小学生と中学生そして幼児用１００名分の駄菓子を用意しました。津波によって買い物も満足に出来ないであろう子ども達に、お買い物気分を楽しんでもらう為に、“南三陸　駄菓子屋さんごっこ”と名付けて、お店屋さんをする子、お買い物をする子の２チームに分けて遊んでもらいました。

坂東さんが富士山の麓から取って来てくれた、マテバシイのどんぐりを使ってじゃんけんゲームをして、男の子チーム・女の子チームどちらが先にお店屋さんになるかを決めました。最初にお買い物係になった女子に対して、男子チームはブーブー。それでも色とりどりのカラーチップのお金を大事そうに管理して、自分の担当のお菓子は人気だとか、大きな声で呼び込みを始める子ども達。最初は距離を置いていた中学生達も自然に自分たちで色々と工夫をして時間を楽しんでいました。

幼い年子のお子さんを連れた若いおかあさんがとても印象的でした。さぞかし大変な時間を過ごされていることだろうと、心が痛みました。無邪気にドングリで遊ぶ子どもを見てこぼれる笑顔。来て良かったと思った瞬間でした。

イベントが終わった後、子ども達は泊崎荘内の２階から海を眺めていました。『なんか。懐かしいな・・・』と話していた男の子達。仮設ができるまで、ここで暮らしていたのでしょう。力強く歩んで行って欲しいと願うばかりです。

お菓子・子供班②　文責：坂東 英代

事前に金谷さんのお宅でミーティングをしました。ドングリやお菓子などの素材を前にすると、遊びのアイディアがいろいろ湧いてきて、当日の交流が楽しみになりました。作り上げていく時間や人との出会いも、ボランティアの醍醐味ですね。

活動終了後、わかめをキャラクター化した手作り品を開発しているお母さんグループがあることを知りました。当日なにかつながれたのではないかと思うと、事前の情報収集がうまくできなかったことが残念です。

今回のツアーは、多くの支援物資や寄付金も集まりましたが、最大の目的は私達の心や想いを届けることでした。参加者がこの経験をどう生かすか、お金だけではない支援につなげられるよう考えていきたいと思います。

歌声班

文責：竹内 敏夫

＜事前準備＞

1 月 9 日（月）於：時田家

- 船津先生のリードにより、歌の選曲、スタートに歌う曲、ラストの曲、また中間でのリクエスト曲を受けるという基本構想を決めた。
- 選曲は「春」の歌 7 曲を選び、他に 23 曲を選び、全部で 30 曲とした。

1 月 25 日（水）於：フィランセ

- 初音あわせを行なった。一部曲の題名変更及び訂正等、歌集の内容の変更も必要となった。

2 月 14 日（火）於：フィランセ

- 歌集（目次及び 30 曲）150 冊印刷製本を行なった。（担当縣、時田、竹内）

2 月 28 日（火）於：フィランセ

- 急遽現地からのリクエスト曲（4 曲）150 冊印刷製本を行なった。
- リクエスト曲の集計用紙及び、記入用筆記道具（時田宅寄贈）も用意でき準備完了した。

＜本番＞

大雪が東北道を止め、南三陸町への到着が大幅に遅れたバスから手分けして楽器、器材を抱え音楽会場に走りこむ状態で演奏者の音合わせ、音量調整等の準備がまったく出来なかったが、そこは百戦錬磨のベテラン演奏者の集まり、13時開始を30分遅れたが、総合司会の小松さんの発声により、第一部がスタート、長く待っていてくれた地元の人々を巻き込むのに時間は掛からなかった。

10分間の休憩後、第二部リクエストコーナーが、14時10分から松本哲司さんの巧妙な司会でスタート。リクエスト曲をユーモアたっぷりに解説する船津先生、そしてマイクを持つ役者揃いの地元の歌手の皆さんは、船津先生の小道具、レイを首に掛け、「ガンバロー日本」の鉢巻を締めての熱演、それに応える皆さんの手拍子、合唱が一曲ごとにますます盛り上がって行きます。その盛り上がりが、最高潮に達した時、フィナーレの「ふるさと」を、再入場した子供達を交えての大合唱が、笑顔と手拍子で会場が一つの絆で結ばれました。余韻冷めやらぬ中、定刻14時50分に、次の担当のKage-Boushiさんに無事会場渡しが出来ました。

＜トピックス＞

音楽会全体は非常に盛り上がった。歌い進んで「北国の春」になった時、もう全員が「笑顔」「笑顔」-------で歌い始めました。

更に盛り上げていただいた現地の方は、事前に要望されたリクエスト曲「妻恋道中」のとき、マイクを持って、更に皆さんの前に進み出て、歌い出しました。

更にもう一人の人が歌っている時、飛び入りで、座布団を抱えて踊り始めました。会場中拍手喝采でした。

一人女性がマイクをとり、歌を1番、2番、3番これで終わりと思ったら、4番

謡歌い出し、此れにも皆さん大拍手喝采でした。

その人（お名前をお聞き忘れました）にとっては、本当に思い出深い曲だったのでしょうね。全員が拍手しました。

歌いながら子どもたちのところに行き、膝を曲げて一緒に歌おうとすると、その顔は本当にかわいらしく、笑顔一杯で「かわいいひな祭り」「春よ来い」を、ニコニコして歌っていました。

一人どうしても顔を上げない子もいましたが、よく見ると笑顔で歌っていました。

子ども達の心の奥から、笑顔にする力が歌にはあることを実感しました。

お年寄りの人の近くで歌った時も、歌声は小さいけれど、確実に唇を動かし、一緒に歌っていました。またマイクを積極的に手に握り、赤いレイの首飾りを掛け、楽しく歌う方も多くいました。

最後に「ふるさと」を全員で歌った後、皆さん「楽しかった」という顔を全員がしていました。

＜まとめ＞

なんといっても、全員が一緒にお話し、歌い、そして食事をする等、同じ時間を共有する事が、人間としてどんな状況下にあっても、非常に大切な事と感じました。これからも、私達は音楽を通じて、その枝を伸ばし、お互いが協力する努力を継続することが、本当に大切であり必要なことと思いました。

Kage-Boushi 班

文責：影絵グループ　Kage－Boushi 代表　和久田　恵子

今回の支援ツアーで、私達 Kage - Boushi は影絵の公演を担当しました。

参加に際しては現役のお母さんが多い団体なので、参加人数の確保が難しく悩みました。でもボランティアの原則「出来る人が出来る事を」の通り、少人数でも、今出来る範囲のことをやって来ようと、参加の意思を決めました。

また、青葉台小学校 PTA の外郭団体なので、PTA からの募金や小学校からのメッセージを託されました。

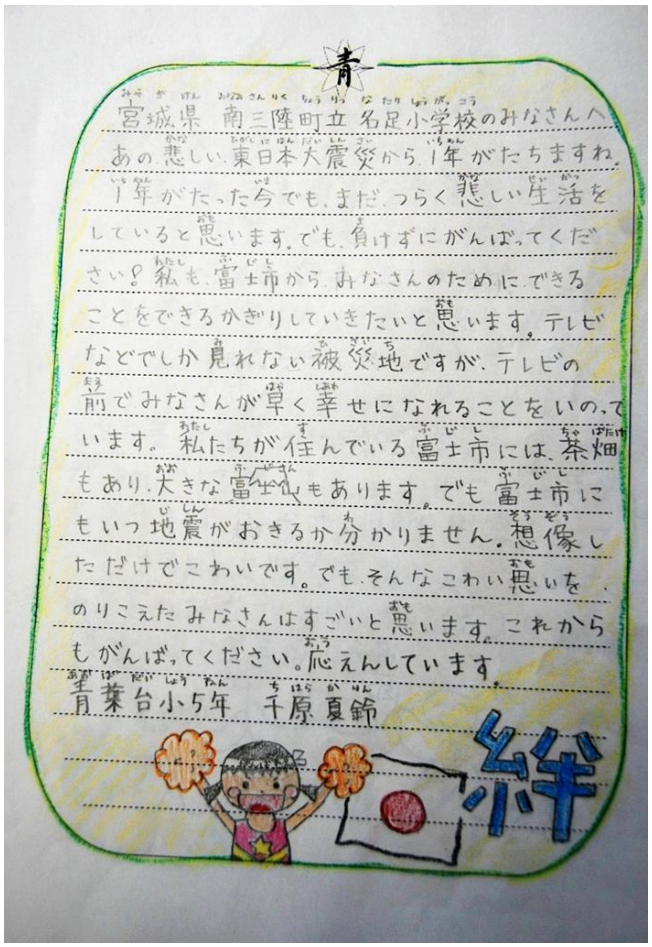
支援ツアー実行委員の皆さんの計らいで、南三陸町立名足小学校 PTA 会長にメッセージを、子どもたちには他の募金も合わせて駄菓子のコーナーを設けて頂き、とても喜んで頂けたとのこと、良かったです。ただ、影絵は事前の確認が甘かった為、スクリーンを全開できなかったり、アンプ等の PA 機材がダブってしまったりと、不手際もありましたが、予定通り無事に上演できホッとしました。欲を言えば、もう少し宣伝し、多くの子どもたちに見て欲しかったです。

現地に行って衝撃だったのは、本当に根こそぎ建物がもっていかれている、という現状でした。おそらく、民家が沢山あっただろう居住区はコンクリートの基礎だけを残し、2 キロ先の海の風が、さえぎられること無く冷たく吹いていました。まるで江戸時代のころの風景のようで、この状況が海岸線に延々と続いているのだという現実を考えると、復興・復旧の難しさを痛感しました。

また、名足小学校の校舎も 1 階は浸水し、校舎についている時計は 3 時 25 分で止まったままです。子どもたちは裏山に逃れたと聞きましたが、どんな思いで走り、どんな思いで津波の襲来を見ていたのか。その心に大きな痛みを残したことは確かです。

私達は子どもたちを含め、被災者の方々が抱える心の痛みを忘れてはいけない。まだまだ何も完結したわけではないのだから、支援に参加したことで自己満足に終わらないよう、関心を持ち続けなくてはいけないのだと肝に銘じました。心の重い場面も沢山ありましたが、本当に貴重な経験になりました。

このような機会をいただけた事に心より感謝し、今後も出来る範囲で支援を継続していきたいと考えています。



最後に名足小学校に贈った青葉台小学校、5 年生のメッセージを一つ添付します。子どもたちのこの温かなメッセージは、きっと北国の氷をとかす力になると思います。

KAGEBOUSHI 班②　“南三陸支援ツアーに参加して”文責：石倉 康子

所要時間、9 時間ほどで現地に到着。影絵での参加ということもあり、ほぼ予定通りの到着でした。

近づくにつれ、海沿いの道の風景が一変、津波の爪痕があまりにも大きく衝撃を受けました。ガレキの山、水のひかない土地、１階の内部が壊された名足小学校の鉄筋校舎など、発生から一年経ってのこの状況に、復興への長い道のりを感じずにいられませんでした。

一方で、被災された方たちが子供から年配の方たちまで、皆さん元気で前向きな様子に感心しました。

空き地の所々で再開しているコンビニを目にしたときも、まず、生活用品を提供しようとするたくましさを感じました。

支援ツアーのほうは、バスの到着時間が大幅に遅れ、事前準備が十分できなかったにもかかわらず、皆さん懸命に作業され、影絵の機材の荷降ろしもしていただき、予定通り上演することができました。取り扱いに気を遣う機材を搬入していただいた運送会社の方・先発隊の方・泊崎荘の皆様方に深く感謝しております。

影絵については、極力いつもどおりを心がけ、手作りの素朴さをお届けできればと思っていましが、ほぼ達成できたのではと思っています。

ただ、準備・片付けに時間が掛かり、現地の方と話をする機会が持てなかったことは残念でした。特に子供たちに影絵の感想など聞いてみたかったです。

このような機会がなければ、決して経験できない貴重な体験をさせていただき、本当に良かったです。

今後とも継続して、何かの形で皆さんのお手伝いができれば良いと考えています。

今回は、本当にありがとうございました。

写真班

文責：写真班　代表　植木屋の金田 憲

３・１１の被災地に、行きたいと思っていました。そんな折、小野ゆみこさんを中心とするグループから、「南三陸町ひなまつり支援ツアー」のお話があり、「参加します」と、手を上げたら、いつの間にか、役員の一人になっていました。

小野ゆみこさんとは、２０１０年５月、富士ブログ村で、初めてお会いし、植え木業を営む私に、「富士市の新ごみ焼却場廻りに、どんな樹を植えたら良いだろう？」との、問いがあり、その一言で、はまってしまいました。

支援ツアー準備の会合は、１月～２月末の５回に参加しました。私は、ブログの実績を買われ、写真班の仕事をもらいました。

ツアー当日、「物資の積み込み」、「チラシ寿司造り」、「豚汁準備」の写真を撮り始めたら、カメラが故障し、急遽新たなカメラを購入しました。

「ツアー」の１ヶ月前と、前日に、「交流会呼びかけ」のチラシ７００枚を、仮設住宅に配布する事になり、その原案づくりに関わりました。

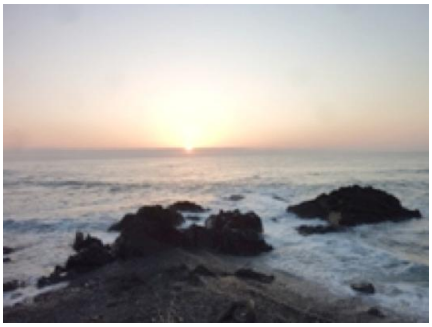
被災地には、雪の為５時間遅れ、１２班が一斉に行動する事になりました。全員が、ゼッケンを付けて、私は、各班を飛びまわっていました。皆懸命に良い顔で、各役割を担っていました。

被災者間の交流も、この企画で出来たと感じました。詳しくは、「植木屋じぃじ」のブログに投稿してあります。短い期間に、これだけのグループが集まり、よく実施出来たと感激しました。

平成の森の仮設住宅に、被災者を送りに行った時に、「遠い所から来て頂いて、本当にうれしかった。」と、お礼を言われ、うれしかったです。又、若者たちの、優しい心づかいが、気持ち良かったです。

今回のツアー仲間は、初めてお会いする人達であったけれども、親戚、家族の様な、雰囲気を感じました。参加した人達の人柄と、各リーダーの手腕、それをまとめた小野夫妻のリーダーシップ、人柄のおかげだと思います。

被災地の復興は、これからだと思います。仕事を作る事が、必要だと思います。土産で買った「生ワカメ」が美味しく、また食べたい。これが、常時手に入る販売ルートが、出来ないだろうか？と思いました。とにかく、今回参加できたことに、大きな喜びと感謝の念を持ちました。



7. 富士市立富士東小５年１組からの手紙

「手作り米を売って想いを届けよう」

富士市立東小学５年１組一同

ぼくたちが、田植えをして、稲刈りをして、農協祭でお米を売ったお金で買いました。
ひさいちのかたの力になればと思っています。
ぜひ、ひさいちのかたに届けてください。よろしくお願いします。

8. 現地からのお礼の手紙＜南三陸町名足小学校からのお礼の手紙＞

＊＊＊＊＊＊ メッセージ ＊＊＊＊＊＊

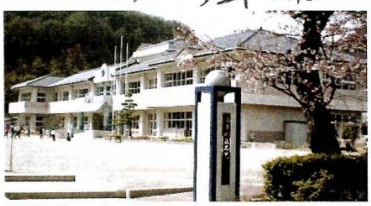
青葉台小学校
五年もりやすたくまさんへ

お手紙ありがとうございます。
私たちは、いろいろな人からしえ
してもらいました。しんさいから一年
がたったけど まだしえんぶっしをもら
ているから、みなさんにかんしゃします。
南三陸町立 名足小学校
二年さとう なつきより

震災前の南三陸町立名足小学校　校舎

＊＊＊＊＊＊ メッセージ ＊＊＊＊＊＊

富士市立青葉台小学校5年1組
のみなさんへ
ぼくは、5年1組の木皿
和輝です。
南三陸町では、きのう3月11日を
むかえました。2時46分に1
分間もくとうをしました。
さいきん町に食堂と魚の加
工工場ができました。
応援ありがとうございました。
これからも復興に向かってがんばって
いきます。
名足小学校5年1組 木皿和輝



震災前の南三陸町立名足小学校　校舎

＊＊＊＊＊＊ メッセージ ＊＊＊＊＊＊

青葉台小学校5年
望野あおいさんへ

お手紙ありがとうございました。
名足小学校は、海のそばなので、小学
校2かいまで波が来たので、いまはつか
えません。でも家も流されてとてもかなしい
です。でもかせつでがまんしています。
早く前の家にすんでみたいです。

名足小学校2年 三浦 もえより

震災前の南三陸町立名足小学校　校舎

＊＊＊＊＊＊ メッセージ ＊＊＊＊＊＊

富士市立青葉台小学校 五年一組のみなさんへ

みなさん、こんにちは、
私は、小野寺 広恵です。
私たちの、学校では、3月16日に6年生の人たちが卒業します。
もう3月11日から、1年がたちます。
私の、町はあの日から、変って、しまいました。
1年たっても、私たちの心の中に、前の名足小学校が目にうかびます。
また、名足小学校にもどって、前の生活にもどりたいです。
あの海は、また、きれいな海にもどるようにねがっていてください。
お手紙ありがとうございました。
私の将来は、みんなのやくにたつ人になりたいです。

名足小学校 五年一組
小野寺広恵

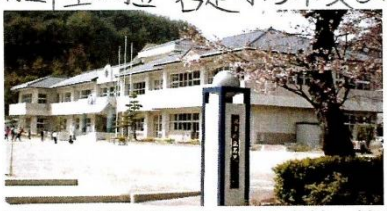
震災前の南三陸町立名足小学校　校舎

＊＊＊＊＊＊ メッセージ ＊＊＊＊＊＊

富士市立 青葉台小学校5年3組
青木 朗我さんへ

お手紙ありがとうございます。私は、名足小学校 6年生の佐藤 志奈です。
私達は、もうすぐ卒業ですが、私達の学校は、津波で流され 今は、別の小学校を間借りして勉強をしていますが 平成25年には、元の学校に戻る予定です。
これからも私達は頑張りますので、みなさんも頑張って下さい。

南三陸町立 名足小学校6年1組
佐藤志奈


震災前の南三陸町立名足小学校　校舎

＊＊＊＊＊＊ メッセージ ＊＊＊＊＊＊

富士市立 青葉小学校
菊池かのん さん。

こないだは、手紙を送ってくださって
ありがとうございます。
私達も、みなさんと同じで、卒業まで あと1週間ぐらいになりました。(:•☆)ﾉ
あの手紙を見て本当に 感動しました。
私も、遠いかもしれないけど、どこかで会えることを願っています。

名足小学校 6年1組
岩石 桂惟

震災前の南三陸町立名足小学校　校舎

＊＊＊＊＊＊ メッセージ ＊＊＊＊＊＊

富士市立 青葉小学校 5年1組
菊地 遥花さんへ

私は名足小学校6年 及川 咲季です。
キレイな手紙ありがとうございます。
私達の、クラスも、にぎやかで、楽しいクラスです。
私も、たくさんの支えんをしてもらい、不便だった生活が、便利になってきました。手紙でも元気が出ます。これからも、がんばってください。

震災前の南三陸町立名足小学校　校舎

＊＊＊＊＊＊ メッセージ ＊＊＊＊＊＊

富士市立 青葉小学校
清水 こと波さんへ

私は、名足小学校 6年の及川 咲季です。
キレイな 手紙 ありがとうございます。
あの震災からもう1年がすぎましたがまだたくさんのがれきがのこったままです。
震災から1年のくぎりをつけて、前を向いてこれからも がんばります。
こと波さんは、テストで100点を取れるように、これからも、がんばってください。

名足小学校 6年 及川咲季

震災前の南三陸町立名足小学校　校舎

9. 収支決算報告

科目	金額	備考
Ⅰ 収入の部		
会費　バス組	1,800,000	25,000 円×72 人
新幹線	38,000	19,000 円×2 人
自家用車(A)	38,000	19,000 円×2 人
自家用車(B)	121,000	11,000 円×11 人
自家用車(C)	27,000	9,000 円×3 人
会費小計	2,024,000	
寄付金	319,254	支援活動に使わせていただきました
雑収入	9,500	コーヒー・ケーキ班での残品売却益
収入合計	**2,352,754**	
Ⅱ 支出の部		
宿代　宿泊費(A)	62,800	7,850 円×2 泊×4 人
宿泊費(B)	659,400	7,850 円×1 泊×84 人
飲物代	68,000	3 日夕食時分
食事代		
飲物代	20,528	バス車内分
朝食代	78,750	3 月 3 日 1,050 円×75 人
夕食代	2,000	
昼食代	110,250	3 月 4 日 1,575 円×70 人
観光バス諸経費		
大型観光バス	525,000	12M バス(ガイドなし)×2 台
乗務員経費	46,200	ドライバー×2 人
添乗員経費	9,450	1 人
駐車料	2,000	1,000 円×2 台
ガイド料	9,000	4,500 円×2 台
瑞巌寺参拝料	45,500	650 円×70 人
旅行保険代	18,200	200 円×91 人
キャンセル返金	40,000	2 人分
振込手数料	840	
報告書制作	99,100	写真を撮る暇がなかった、他班の様子が分からない、のご意見から作成決定
旅行代金小計	1,797,018	
支援活動諸費用		
豚汁	20,317	食材の多くが寄付
ちらし寿司	55,641	米半分寄付
コーヒー豆代	15,683	コーヒー豆半量寄付
ケーキ代	60,000	1,200×50 本、現地調達絆ロールをコーヒーとセットで配布
支援物資購入	109,984	ブルーシート、草刈り機他購入、現地に運んだ分と郵送した分
輸送車・燃料費	50,000	トラック 2 台分の物資輸送ボランティアの燃料代の足しに
菓子・駄菓子	29,254	こども駄菓子屋さんごっこに使用
歌集代	10,000	歌声喫茶に使用
雑費	54,000	ニュー泊崎荘への謝礼、
通信費、郵送費	75,080	
用紙代	5,000	チラシや当日配布資料等の紙代、印刷は寄付
備品代	3,960	支援活動のために備品購入し、現地においてきた分
支援活動小計	488,919	
支出合計	**2,285,937**	
収入－支出	**66,817**	**残金は富士市社会福祉協議会に寄付致します**

10. 寄付金・支援物資提供者、ツアー参加者、事前準備作業参加者リスト

（敬称略、順不同）

1）寄付金提供者（寄付金総額：31 万 9 千 254 円）

キッズイングリッシュ	ＯＮＯ進学ゼミ	青葉台小ＰＴＡ
青葉台小職員	今泉地区民生委員会	木の宮ふれあいクラブ
女性ネットワーク富士	東比奈２丁目町内会	広見法座、一食募金
福祉を進めるみんなの集い	富士市のごみを考える会	吉原ロータリークラブ

明石 みゆき	石倉 祐司	小澤 京子	片山 道子	木戸 けいこ
五島 良太	小松 謙一	塩崎　久代	庄司 富貴代	杉山 孝文
時田 祐佐	中沢 芳江	西川 百合子	野中 きく子	前田 順子
松本 嘉生	水野 伸子	宮原 いずみ	山崎 孝一	山本 秋江
渡邊 かおる	渡辺 好和			

2）支援物資提供者（支援物資送量：大型トラック２台分）

Ａ－１キッズスクール　望月	ＣＡＳＡ　＆ＳＷＥＮ 遠藤 秀男	CORELEX 信栄製紙株式会社
石川 容子(生活クラブ)	今泉地区民生委員	キッズイングリッシュ　　金谷
カットサロン大屋	木の宮ふれあいクラブ	神戸青葉台地区児童委員協議会
神戸青葉台地区民生委員	佐野機械	実円寺、こうせい会
社会福祉協議会（青山泰謙）	ＯＮＯ進学ゼミ	大洋観光、秋山
女性ネットワーク富士南友の会	女性史の本を作る会、代表 松本玲子	内藤米店　内藤　啓司
長島シマ子(２人３脚)	農協本店(渡辺高幸)	ハロー英語クラブ、白水 和恵
富士市立東小学校５年１組	藤田 久代(花の会会長)	まるとみ農園
村瀬生花店	山勢の会	夢折愛媛の会横山　鉄雄

秋元 真由美	秋山 厚子	秋山 菊江	秋山 喜作	秋山 鷹一
秋山 珠美	秋山 政子	秋山 光子	秋山 芳男	秋山 芳弘
小豆澤 啓子	荒岡 剛	池上 聖子	石井 昌子	石川 賢男
石川 春美	石倉 祐司	石田 友子	石原 聡美	磯部 一枝
板重 恵子	一瀬 敏夫	井出 優	伊藤 敏之	稲葉 敬子
稲葉 恵子	上柳 陽子	内田 貴子	梅原 万奈	漆畑 達子
漆畑 学	漆畑 豊	大石 恵美	大石 敏正	大石 久子
大石 恭則	大川 喜代子	大槻 昭男	小川 照代	小櫛 和子
小澤 杏奈	小澤久美子	小沢 信江	小澤 緑	小野 房雄
風岡 忠治	勝又 清美	勝又 さち子	勝亦 常勝	勝亦 昌子
勝又 康代	金田 憲	神尾 昇	川口 悦治	川口 聡子
川口 光範	河原 孝子	木村 時江	久保田 稔	黒岩 政江

桑原 かづ子	小泉 美津江	甲田 久恵	後藤 千賀子	小林 勝
小松 春枝	小山 薫	小山 恒治	斉藤 照子	斉藤 みつ代
斉藤 緑	坂梨 雅也	佐藤 絹子	佐藤 成	佐野 国近
佐野 啓子	佐野 のぶ子	佐野 春江	佐野 久雄	佐野 英明
佐野裕昭、恵美子	佐野 雅美	佐野 洋子	澤井 由紀	塩崎 久代
塩沢 節子	塩谷 幸子	清水 悦子	庄司 富貴代	白石 年弘
菅沼 佳代子	杉田 廣	杉山 絹枝	杉山 君代	杉山 須美江
杉山 孝文	杉山 洋子	鈴木	鈴木 寿美子	鈴木 弥一郎
芹沢 和子	芹澤 和子	芹沢 清	芹澤 三千代	高井 まり子
高橋 隆則	高橋 正	高橋 憲男	高橋 宏	高橋 美枝
高橋 三千代	高橋 光子	高橋 裕貴	滝北 育代	竹松 由美子
田島 由美子	多田 稔	田中 文代	田中 美佐子	田中 恵
時田 政子	時田 祐佐	仲神 郁代	仲神 フユ子	中嶋 幸子
中野 恵子	中原 フミ	中松 咲子	中村 敬子	中村 のり子
中村 まどか	西島 紀美子	西村 よし子	西山 藤子	二本柳 千重美
野中 きくこ	野村 鶴子	野村 伴良	速水 啓一	斉下
深澤 真紀	藤田 薫	藤田 啓子	藤田 将志	本田 孝平
前田 順子	増田 暁美	松田 政一	松本 康代	三浦 利明
水野 桂子	宮崎 邦子	村松 辰夫	村松 陽子	望月 あい子
望月 利雄	望月 美智子	森川 ぎん子	矢辺 勇次	山崎 和美
山下 幸子	山下 松喜	山本 郁美	吉田 三奈子	吉野 喜美子
米山 勝英	米山 道子	脇川 アトミ	渡瀬 芳美	渡辺 悦子
渡辺 和子	渡辺 和則	渡邉 勝信	渡辺 絹子	渡辺 恭宏
渡辺 清久	渡辺 久美子	渡邉 恵子	渡辺 セイ子	渡邉 哲雄
渡辺 富香	渡辺 朋美	渡辺 信雪	渡邉 春夫	渡辺 弘幸
渡辺 邦子	渡辺 雅子	渡辺 政子	渡辺 正敏	渡辺 みさを
渡邉 道夫	渡辺 三津子	渡辺 利江	渡辺 理恵	渡辺 律子
藁科 美智子	吉野 史幸	仁藤 ハツエ	仁藤 宏美	

3）ツアー参加者

＜バス１号車＞

縣 昌司	秋山 珠美	石田 友子	和田上たま江	内田 貴子
大石 恵美	大石 敏正	大石 久子	荻野 武彦	荻原 正江
小野 由美子	影島 由希	金指 希依	金刺 美津子	金谷 尚美
渡辺 雅子	久保田 充俊	熊谷 良子	黒岩 正江	斎藤 みつ代
佐野 のぶ子	佐野 町子	塩崎 久代	芹沢 和子	芹沢 清

高田 愛子	高橋 裕貴	竹内 敏夫	長倉 時江	長橋 シマ子
坂東 英代	松本 哲司	松本 好子	山田 徹	

＜バス 2 号車＞

石川 多津子	石川 憲昭	漆畑 達子	落合 真奈美	小野 房雄
影山 通	勝亦 昌子	加藤 れい子	金田 憲	金森 光弘
小松 春江	小山 照代	佐藤 絹子	杉山 絹枝	杉山 君代
杉山 近司	板重 敬子	高井 まり子	高橋 みな子	竹松 由美子
田中 文代	田中 行雄	中野 恵子	中村 敬子	藤田 啓子
増田 暁美	増田 信義	山崎 和美	吉田かんな	吉田 裕幸
米山 勝英	渡辺 和子	渡辺 久美子	渡辺 健二	渡辺 弘幸
神尾 昇	渡辺 セイ子			

＜新幹線＞

船津 好文	船津 和世子

＜自家用車＞

時田 祐佐	時田 由美子		
和久田 恵子	石倉 康子	平田 淳子	三澤 多美子
福井 睦美	鈴木 和子	徳尾 由子	皆川 一哉
鈴木 大介	四条	仁藤	河野

＜トラック＞

勝又 秀人	勝又　純子	勝又 あや

4）事前準備作業参加者

＜ひなちらし調理作業＞

秋山 雅子	石井 ゆきこ	石川 多津子	石倉 康子	梅原 万奈
漆畑 達子	小野 由美子	風岡 房枝	小泉 美津江	佐野 貴子(鑑石園)
杉田 弘子	芹澤 美千代	竹田 紀子	田中 三保子	中松 咲子
中山 準子	二本柳 千重美	平田 淳子	藤田 久代	増田 暁美
丸山 幸子	渡辺 みさお			

＜豚汁調理作業＞

赤堀 美恵子	秋山 珠美	荒井 隆江	岩辺 治代	浮津 菊江
内田 貴子	大場 アサ子	大箸 玲子	川口 よし江	清 きみ江
小山 久子	斎藤 勝江	斎藤 豊子	佐藤 鎮子	篠原 雅子
高橋 三千代	田村 ひさ子	田村 百合子	仁藤とし子	平井圭子
細川 初江	松本 百合子	渡辺 雅子	渡辺政子	

＜支援物資受入・仕分作業＞

秋山 菊江	秋山 鷹一	秋山 珠美	秋山 政子	小沢 信江
小野 房雄	小野 由美子	勝又 さち子	勝又 康代	金田 憲
小松 春江	佐野 のぶ子	中村 敬子	増田 暁美	増田 信義
渡辺 久美子	渡辺 健二	渡辺 高幸	渡邉 雅子	

＜後援＞　富士市災害ボランティア連絡会

思いがけず多くの皆様からご寄付や支援物資を多数いただきました。
ハプニングはありましたが、その中でもこのように充実した支援ができたのは、ひとえに皆様のおかげです。心より感謝いたします。ありがとうございました。　　実行委員会一同

３月４日松島にて　　バス組集合写真

11. 新聞記事、TV 放映等

来場者のリクエストにこたえて運営した歌声喫茶

笑顔と真心届ける

市民有志が南三陸町へ

災害時の共助に生かす

仮設住宅で暮らす人たちに笑顔と真心を―。富士市内の有志が実行委員会を組織し、宮城・南三陸町を訪れる「3・3南三陸町ひな祭りツアー」（小野由美子委員長）がこのほど行われ、約90人が歌声喫茶や影絵の上演などを通して交流した。東日本大震災から1年を迎え、県内においては災害がれき（岩手県大槌町、山田町）の受け入れに向けた動きも見られる中で「自分の目で被災地を見て何をすべきか、将来的な地域防災対策を踏まえ考える必要がある」（小野委員長）と企画。参加者は触れ合いの中にも仮設住宅での生活を余儀なくされる大規模災害に理解を深めた。

（写真はいずれも実行委提供）

市民から寄せられた物資を手渡す参加者

ツアーに参加したのは、青葉台地区住民が中心。同地区では、地元の園芸農家の女性が南三陸町の出身であることから、同町の要望に沿った物資の収集に取り組むなど、地域を挙げた支援活動を推進。同地区の町内会連合会や福祉推進会、青葉台小ＰＴＡのほか、女性ネットワーク富士などが趣旨に賛同した。

心の交流が目的で、富士川地区を中心に活動するコーラスグループのメンバーに加え、松崎町在住のアコーディオン奏者を迎えての歌声喫茶、青葉台地区住民で構成するＫａｇｅ-Ｂｏｕｓｈｉの影絵上演でにぎやかなひと時を過ごした。

歌声喫茶には飛び入り参加で民謡を披露するシーンもあったが、一方で「長期的な仮設住宅での生活によるストレスを感じた」（小野委員長）という日常が浮き彫りになった。

大人だけではない。子供たちからのリクエストで駄菓子を差し入れると、満面の笑顔で喜びを伝えたという。

訪問を前に物資の提供を呼び掛けたところ、富士、富士宮市内から約３００件の協力があり、南三陸町内の仮設住宅６ブロック・約５００世帯に対しトイレットペーパーとタオル、洗剤を全戸配布したほか、要望のあった草刈り機やブルーシートなどをブロック単位で提供した。

物心両面を届けたツアーは盛況に終わった。一方、仕事を失ったことへの不安や、長期化する仮設住宅での暮らしに対する不満の声も聞かれた。海岸沿いに依然として築かれているがれきの山も被災地の現状を物語っていた。

小野委員長は「復興支援を第一に、避難所運営などに役立てたい」と今回の訪問を災害時の共助に生かすつもりだ。

Ｋａｇｅ-Ｂｏｕｓｈｉによる影絵の上演

笑顔と真心届ける 市民有志が南三陸町へ 災害時の共助に生かす（2012/3/8_富士ニュース）

南三陸町で絆築こう

青葉台地区住民有志ら出発

富士市内の有志が2日、宮城県の南三陸町へ向けて出発した。「3・3南三陸町ひな祭りツアー」（実行委員会主催、小野由美子委員長）と題し、仮設住宅で暮らす町民に元気と笑顔を届ける企画。約100人が、きょう3日に町内の宿泊施設に町民を招いて歌声喫茶を運営したり影絵を上演したりするほか、実行委で用意したちらしずしと豚汁を振る舞う。

ツアーは、南三陸町出身で青葉台地区荻の原区に住む渡辺久美子さんが、昨年の東日本大震災後に支援物資の提供を求めた際、支援の輪が富士市全域に広がったのをきっかけに、継続的な支援に取り組もうと小野実行委員長が提案。同地区町内会や女性ネットワークをはじめとしたまちづくり団体のメンバーが協力を申し出た。

心の交流も図ろうと、アコーディオン奏者で富士市内の中学校長だった船津好文さん（松崎町）や同市内の音楽愛好家の賛同を得て歌声喫茶を開くほか、青葉台地区住民で構成するKAGEBOUSHIが影絵を上演する。

トラックの荷台へ物資を積み込む実行委員

2日夜の出発を前に、日中は渡辺さん宅で物資の積み込み作業を行った。2月中旬、生活必需品を中心に渡辺さん宅に持ち込みを呼び掛けたところ、富士、富士宮市内から約300件の協力があった。企業の賛同もあり、信栄製紙（富士宮市西町）からはトイレットペーパー8000ロールが寄せられた。

ツアーに参加する青葉台地区町内会連合会の増田信義会長は、「必要とされていることに、地域として関われるのは有意義。仮設住宅で生活することは決して他人事ではなく、災害時に地域コミュニティーを機能させるという後学のためにしたい」と意義を伝えた。

実行委員の1人、田中文代さんは、先ごろ渡辺さんと共に南三陸町を訪問し、仮設住宅約500戸を回ってイベント開催を周知した。

「どこへ行っても歓迎され感激した」という田中さんだが、一方で人恋しさが伝わってきたという。

同じ思いを肌で感じた渡辺さんは「多くの皆さんの力を借り古里に恩返しをしたい」と絆に感謝する。

（2012/3/3_富士ニュース）

南三陸町で絆築こう　青葉台地区住民有志ら出発

NHK ニュースで放映されました
(2012/3/3)

12. 編集後記

KID'S ENGLISH 金谷&Mac 中心に、大石、金田、小野で、夜 11 時過ぎまで編集会議、お疲れ様でした

3･3南三陸ひな祭りツアーの報告書が漸く発刊の運びとなり、編集委員一同、とても嬉しく思っております。

一日も早く決算の報告をしたい！　そのためには報告書を完成させなければ!!　という焦りの中、4 月 1 日（日）に第 1 回目の編集会議が ONO 進学ゼミにて開催されました。出席者は金田憲、石倉康子、小野房雄・由美子、大石恵美の 5 名です。

報告書にできるだけ沢山の写真を載せるため、写真班の金田が膨大な写真を整理し、DVD を作りました。本当は WEB で皆が写真を見られるようにと四苦八苦したのですが、セキュリティーの問題があって断念！　気の遠くなるような作業でした。

前もって参加者に依頼していた感想文も続々と集まっていました。メールで送られて来たもの、手書きのもの、FAX で届いたもの・・どれも参加者の熱い気持ちに溢れています。これらを石倉と大石で手分けしてデータ化・整理しました。

報告書の大枠の構成が決まり、データが揃ったところで形にしていったのが時田祐佐です。バラバラのデータの文字を揃え、写真をキレイにはめ込み直し、体裁を整え、ステキな表紙をデザインし、編集委員たちのワガママな要求に応え！　完成に近い報告書が出来ました。

編集会議の第 2 回目は 4 月 15 日(日)、金田憲、金谷尚美、小野房雄・由美子、大石の 5 名が出席しました。時田作の報告書がこの時点で 45 ページ！　予算の問題で何としても 40 ページに削るべく議論白熱です。大石が全体的な修正、坂東英代が校正（完璧で美しい校正でした!)、金田が写真の再選定、最終仕上げを金谷が引き受けました。小野房雄と由美子も全体の校正を繰り返し行いました。

4 月 20 日～22 日の「被災地のがれき処理を考える、がれき見学会」を挟み、編集作業も佳境に。金谷が夜を徹して完成させました。皆で、この貴重な経験を忘れないように、そして多くの人に伝えられるように、何度も見たくなる、見せたくなる報告書を目指して完成させました。

最後になりましたが、感想を書いて下さった皆様、発刊にご協力いただいた関係者の皆様に、一同改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

編集委員：時田祐佐、金田憲、大石恵美、金谷尚美、石倉康子、坂東英代、小野房雄、小野由美子

今回のツアーの約６００枚の写真を納めた DVD を ¥1,000 でお宅までお届けします。お電話にてお申し込みください。

電話　0545-35-2376　　金田憲

実行委員長　：　静岡県富士市大淵 27 番地の6　小野 由美子　☎35－2439